

進 長島氏 代表選出馬の意向

民

野党共闘見直し掲げる

東京都知事選で野党4党の推薦候補が大差で敗れたことを受け、9月の民進党代表選を巡る動きが活発化してきた。保守系で元防衛副大臣の長島昭久氏(54)は

「左傾化している」と主張。都知事選で、野党4党が推薦した鳥越俊太郎氏が「憲法を守る」などと演説で訴えたことにも不満を募らせていた。

1日、野党共闘路線の見直しを掲げて立候補を目指す考えを明らかにした。

ただ、長島氏は代表選立候補に必要な20人の推薦人を確保していないといい、「ほかにふさわしい人がいれば、その人をもり立てて

「野党共闘は、選挙を意識して党内の議論をしないまま、なし崩し的に行われてきた。民進党が政権交代可能な政党として国民の信頼を回復するのに正しい道なのか疑問だ」

長島氏は国会内で記者団に、共産党を含む野党共闘路線を見直す必要性を訴えた。長島氏ら党内保守系議員はかねて、共闘を重視するあまり民進党の立ち位置が共産党などに引っぱられ

いくことも視野に入れる」と述べた。推薦人が集まらない場合、同じ保守系で路線見直しに前向きな前原誠司・元相や細野豪志・元環境相らとの連携を図る方針とみられる。

細野氏は1日、国会内で記者団に、自らの立候補の可能性について「今の時点では白紙だ」とだけ述べた。

一方、岡田代表ら執行部側は共闘路線を継続させた考えだ。代表選不出馬を表明した岡田氏の後継候補としては、蓮舫、長妻昭両代表代行や枝野幹事長の名

前が取り沙汰されている。枝野氏は7月31日、さいたま市で記者団に、「岡田氏が積み重ねて作り上げてきたものを引き継いで発展させていくことが政権への近道だ」と述べたが、自身の出馬の可能性については明言を避けた。共闘路線継続の是非を巡り、党内のせめぎ合いが続きそうだ。

これに関連し、共産党の志位委員長は1日の記者会見で、野党4党の枠組みを「公党間の合意事項だ」と指摘し、次期衆院選での共闘は既定路線との認識を強調した。